学　校　だ　よ　り

「みんな花笑み」

「知」　主体的に考え粘り強く取り組む子を育てます。
「徳」　自分を大切にし、互いの違いを認め合える子を育てます。
「体」　心身ともにたくましく生きていく子を育てます。
「公」　まちを愛し、人とつながり、ともに創造する子を育てます。
「開」　広い視野をもち、自分の思いをのびのびと表現する子を育てます。

令和５年４月２８日
横浜市立菅田の丘小学校
校長　　若山　京子
５月号
〔皐月　May〕

リアルな経験から学ぶ

副校長　臼井　亮司

２４日（月）に、体育館に全校が集まり、「１年生を迎える会」を行いました。迎えられる１年生はもちろん、同じ空間で一緒に時を過ごした２～６年生、教職員、みんなの笑顔があふれるすてきな行事となりました。

新型コロナ感染症が流行するまでは当たり前のように行っていた行事ですが、全校が体育館に集まり実施できたのは本当に久しぶりです。お互いの表情や様子を見合ったり、声を聴き合ったりすることは、オンラインや放送でも可能です。しかし、リアルな交流を通してそれら経験することで、オンラインや放送では得ることが難しい一体感を感じることができました。

また、この４月には、学校生活の様々な場面で、一学年進級した子どもたちの素敵な行動がたくさん見られました。その中で、とてもわたしの心に響いたエピソードを紹介させていただきます。

４月初めのことです。ある１年生の子が、昇降口で泣いて動けなくなっていました。それに気づいた６年生が優しく声をかけ、泣いている子と手をつなぎ、一緒に教室に行ってくれました。わたしは、その日の休み時間、その６年生のところに行き、「明日からも、もし泣いている１年生がいたら、教室まで連れて行ってあげてね。」とお願いしました。翌日から数日間、その６年生の子は、泣いている１年生と一緒に教室まで一緒に行ってくれました。泣いていた１年生も、今では自分一人で、笑顔で教室に行っています。

わたしたち教員が「大丈夫だよ。」などと声をかけても、泣いてなかなか動こうとしなかった１年生が、６年生の関わりで教室に歩いていく様子を見て、どんな魔法の言葉かけをしているのかが気になり、教えてもらました。するとこんな答えが返ってきました。

『自分も1年生の時、不安で泣いたことがあった。その時に6年生に優しくしてもらい教室まで一緒に行ってもらったことを思い出した。だから、「自分も同じように泣いていたんだよ」とか「今は心配かもしれないけれど、すぐに慣れるよ」とか、安心してくれるように声をかけたんです。』

この言葉を聞いて、WBC に出場されたダルビッシュ有投手の次のようなコメントを思い出しました。

「イチローさんが前回 2009 年に出られたのが 35 歳くらいで、同じくらいの年齢だった。いろいろチームのことをしなきゃいけない中で、ああやって日本代表に時間を割いてくださっていたので。それは自分もこの年齢になってきていますから、若干意識はしました。イチローさんと自分のやり方は違ったと思いますけど、置かれている立場というのはすごく似ていたので、イチローさん結構大変だったんだなとか、いろいろ考えることはありました。いろんな意味で自信になりました。」

わたしたち大人は、子どもたちに、上級生らしい、お兄さんお姉さんらしい行動や振る舞いを期待します。リアルな体験や経験を通し、実際に目や耳にするからこそ、子どもたちはその行動や振る舞いの具体的なイメージを学んでいくものでしょう。

本校の子どもたちは、先に書いた日常生活や１年生を迎える会だけではなく、避難訓練等でも、素晴らしい姿や行動を見せてくれています。そしてその姿から何を学んだのかを子どもたちが自覚できるよう、職員が関わるようにしています。

５月には、新型コロナ感染症の位置付けが変更になり、様々な制限が緩和される見込みです。全校や異なる学年が集まる機会やリアルに交流する経験等、学校だからこそできる学びの機会を充実させていきたいと考えています。